

# 令和6年度 高松市外郭団体 経営評価シート

## 1 団体情報

No.	5	種別	有限会社	団体名	有限会社湯遊しおのえ		
所在地	香川県高松市塩江町安原上東390番地1						
電話番号	087-893-1378		FAX番号		所管 部局	創造都市推進局 観光交流課 観光エリア振興室	
団体ホームページ	-						
代表者職氏名	代表取締役 喜多 維昭		設立年月日	平成9年3月24日			
資本金	8,900 千円		市出資等額(割合)	2,250 千円		( 25.3% )	
設立目的	地域内外との連携 環境の保全 地域の活性化						
事業概要	「道の駅しおのえ」施設の管理運営委託及び同施設内での産直品・お土産品等の販売 内場ダム下トイレの清掃						
評価対象決算期	令和6年3月1日		～	令和7年2月28日			

## 2 組織の状況(令和7年4月1日現在)

	令和6年度	令和5年度	令和4年度
役員数(非常勤含む)	5 人	5 人	6 人
うち市派遣(兼務含む)	0 人	0 人	0 人
うち市退職者	0 人	0 人	0 人
役員平均年間報酬	480 千円	60 千円	200 千円
職員数(非常勤含む)	5 人	5 人	5 人
うち市派遣(兼務含む)	0 人	0 人	0 人
うち市退職者	0 人	0 人	0 人
職員平均年間報酬	1,706 千円	2,064 千円	2,125 千円

## 3 主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和6年度事業費
施設の管理・運営受託事業	「道の駅しおのえ」施設の利用者が常に快適に利用できるような施設全体の管理運営	1,148 千円
農林産物等の販売事業	管理受託施設内での地元産直品及び土産品等の販売	19,580 千円

## 4 市の財政的関与の状況

	令和6年度	令和5年度	令和4年度
補助金	0 千円	0 千円	0 千円
委託料	1,306 千円	1,306 千円	1,306 千円
うち指定管理料	0 千円	0 千円	0 千円
その他	0 千円	0 千円	0 千円

## 5 財務状況

### ①損益計算書

区分	令和6年度	令和5年度	令和4年度
売上高	87,137 千円	49,380 千円	48,773 千円
売上原価	61,138 千円	31,385 千円	31,515 千円
売上総利益	25,999 千円	17,995 千円	17,258 千円
販売費及び一般管理費	20,728 千円	19,776 千円	19,494 千円
営業利益(△の場合は損失)	5,271 千円	△ 1,781 千円	△ 2,236 千円
営業外収益	25 千円	813 千円	156 千円
営業外費用	0 千円	0 千円	0 千円
経常利益(△の場合は損失)	5,296 千円	△ 968 千円	△ 2,080 千円
特別利益	0 千円	0 千円	0 千円
特別損失	0 千円	0 千円	0 千円
法人税等	80 千円	80 千円	80 千円
当期純利益(△の場合は損失)	5,216 千円	△ 1,048 千円	△ 2,160 千円

※四捨五入の関係上、千円でずれる場合があります。

### ②貸借対照表

区分	令和6年度	令和5年度	令和4年度
流動資産	20,234 千円	14,919 千円	15,672 千円
固定資産	367 千円	473 千円	680 千円
資産計	20,601 千円	15,392 千円	16,352 千円
流動負債	5,696 千円	5,702 千円	5,581 千円
固定負債	0 千円	0 千円	34 千円
負債計	5,696 千円	5,702 千円	5,615 千円
資本金	8,900 千円	8,900 千円	8,900 千円
利益剰余金等	6,006 千円	790 千円	1,837 千円
純資産計	14,906 千円	9,690 千円	10,737 千円

※四捨五入の関係上、千円でずれる場合があります。

### <主な経営指標>

区分	令和6年度	令和5年度	令和4年度
流動比率 (流動資産÷流動負債)	355.2 %	261.6 %	280.8 %
自己資本比率 (純資産計÷負債・純資産計)	72.4 %	63.0 %	65.7 %

## 6 経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管課による評価
①公益的使命・市が期待する役割への対応	来訪者が気持ちよく利用できるトイレ及び施設の清掃を心がけている。公共性のある施設のため、何人も公平に利用できる対応をしている。地域の物産品の開発・販売をしている。	来訪者が快適に利用できるよう、施設全体の清潔保持に努め、併せて地域産品の開発・販売により、塩江地域の魅力発信や地域経済の活性化に寄与しており、道の駅としての公益的役割を果たしている。一方で情報発信や誘客に向けた取り組みについてはさらなる工夫が期待される。
②業務・組織管理	正社員3名パート2名によるシフト制にて業務を実施し、経費の削減をしつつ、来訪者への声かけを実施し、お客様のニーズ把握にも務めている。	少人数ながら運営体制が工夫されており、日々の業務が安定して行われていることがうかがえる。また、利用者の声を把握・反映する点はサービス向上に向けた前向きな取り組みとして評価できる。

<p>③財務状況</p>	<p>令和6年度から、仕入れの見直し、シフトの見直しなどを実施し、流動比率は高い水準であり、自己資本比率も良好である。現在、赤字経営から黒字経営へと改善しているところである。</p>	<p>行基の湯の閉館などにより、客足が減っていく中、仕入れ方法やシフト体制の見直しを進めたことで、財務状況が着実に改善し、黒字化へ転じた点は大きく評価できる。今後も持続的な収支管理等の取り組みを継続されることを期待したい。</p>
<p>④今後の方向性及び課題</p>	<p>高齢化による農産物の出品者の減少をどのように解決するかが課題である。今後も、地域に密着した経営をし、持続可能な管理運営を目指す。 うどん・サンドウィッチなど、気軽に食べることができる物を提供することで、休憩所・軽食の飲食場所として提供することを継続したい。</p>	<p>山間地域であり、地域全体で高齢化が進んでいることから、出品者の確保だけでなく、安定運営に影響する重大な課題であると認識している。地域に根差した運営方針を継続しつつ、担い手の確保や商品構成の見直し等、地域実情に即した取り組みが進むことを視野に入れたい。</p>

【再掲】各指標の推移

